

ソフトボールにおける競技力向上について

ソフトボール専門部 埼玉県立越谷西高等学校 齋藤紗希

1、競技力向上のための取り組み

(1) 指導者の育成

選手の競技力を向上させるためには、指導者の育成が大切だと考える。各チームの監督やコーチの指導力向上が必要不可欠である。指導力向上のための取り組みとして指導者資格の取得もその一つである。公認スポーツ指導者の種類は以下の通りである。

公益財団法人日本体育協会並びに公益財団法人日本ソフトボール協会認定資格

- ①公認ソフトボール指導員
- ②公認ソフトボール上級指導員
- ③公認ソフトボールコーチ
- ④公認ソフトボール上級コーチ

公益財団法人日本ソフトボール協会認定資格

- ①公認ソフトボール準指導員

これらの資格取得には座学や実技の内容で講習が行われ、検定試験により判定される。

また、一度資格を取得したものが永久資格となるわけではなく、資格の定期的な更新が定められている。有効期限は4年間とされており、資格更新には講習の受講が必要となる。更に、指導者資格取得も義務化され、公益財団法人日本ソフトボール協会主催の公式試合に出場するチームの監督・コーチは、原則として上記のいずれかの有資格者でなければならない。ただし、監督・コーチが資格を有していない場合においては、チーム内に有資格者がいなければならない。資格取得には年齢制限もあるため、基本的には監督・コーチの資格取得が必要である。国民体育大会出場チームの監督は公益財団法人日本体育協会の資格を有していなければならない。

ソフトボール専門部では、インターハイ予選の抽選会や年度末の総会で全県のソフトボール部顧問が集まる機会等に講演会を設定し、他種目の指導者の方などにも講演を依頼し、指導について学ぶ場を設けている。

(2) ソフトボール競技の普及

競技力向上と普及は密接に関係していると考えます。競技人口が少なければ、競技力が向上せずとも試合に出場することができ、場合によっては上部大会に出場できる可能性もある。平成28年度の埼玉県のチーム登録数・個人登録数は以下の通りである。

チーム登録数

クラブ：男子 19/女子 1

実業団：男子 1/女子 1

大学：男子 5/女子 5

教員：0

一般女子：レディース 22/エルダー9/エルデスト 4

一般男子：一般男子 66/壮年 24/実年 24/シニア 69/ハイシニア 56

高校生：男子 13/女子 94

中学生：男子 3/女子 13

小学生：男子 26/女子 27

合計 482

個人登録数

クラブ：男子 427/女子 12

実業団：男子 19/女子 26

大学：男子 116/女子 130

教員：0

一般女子：レディース 477/エルダー161/エルデスト 76

一般男子：一般男子 1550/壮年 580/実年 513/シニア 1638/ハイシニア 1226

高校生：男子 288/女子 1549

中学生：男子 45/女子 311

小学生：男子 494/女子 483

合計 10121

全国で見ても、埼玉県のチーム登録数・個人登録数は多い方である。また、チームが存在していても、登録を行っていない場合もある。実際、高校の女子ソフトボールに関して言えば、チーム登録をしていても人数が少なく、合同チームでの大会参加を行っている場合もある。競技人口は減少傾向にあると考える。競技人口を増やすためにはどのような取り組みが必要なのか。個人的な考えにはなるが、①継続者を増やすこと②メディアへの進出③オリンピック種目に継続的に採用されることなどではないだろうか。継続者を増やすことに関してはソフトボールの楽しさや深さを経験することで、続けたいという気持ちになる。それを経験させるために必要とされるのが、指導者の力である。メディアへの進出はソフトボール競技をテレビ放送し、認知度を上げていくことも必要とされるのではないだろうか。オリンピック種目に関しては、2012年ロンドンオリンピックの正式種目から外され、2020年東京オリンピックでの追加種目として実施が決定している。ソフトボールを普及させ、競技人口を増やすことで、チーム内での競争が始まり、練習意欲が生まれるのではないだろうか。それによって選手個人の競技力が向上していくのだと考える。

(3) 強化練習会・研修大会

埼玉県高体連では中体連と連携し、年に一度、中学・高校の合同練習会を実施している。また、春の新学期スタート前、夏の新チームスタート時、冬の公式戦の無い時期等に研修大会等を設け、選手の実践の場を増やし、経験を積ませる機会を与える取り組みも行っている。技術向上を目指した、長期休業中の合宿等を行っている学校も多い。

2、まとめ

今回のレポート作成により、改めてソフトボールの競技力向上に自分自身も向き合うことができた。高校ソフトボール部の顧問、監督としての指導力向上、中学生から魅力ある部活だと思ってもらえるような部活動の運営、指導者講習会への積極的な参加を行って行きたいと考える。また、選手を研修大会や練習試合に積極的に参加させ競技力向上を目指していきたい。